

平成 20 年 12 月 19 日

各 位

会社名 ゼネラル株式会社  
代表者名 代表取締役 北田 猛  
(コード 3890 大証第2部)  
問合せ先 経理部長 有野 隆久  
(TEL 06 6933 1805)

平成 20 年 10 月期通期連結業績修正予想と個別業績の前年実績の差異ならびに  
特別損失の計上に関するお知らせ

平成 19 年 12 月 20 日付当社「業績予想に関するお知らせ」にてお知らせいたしました平成 20 年 10 月期通期連結業績修正予想と個別業績の前年実績の差異に関して今回業績確定した数値との差異に関してならびに特別損失計上に関して、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 20 年 10 月期 連結通期業績予想の修正

( 1 ) 20 年 10 月期 連結通期業績予想の修正 (平成 19 年 11 月 1 日 ~平成 20 年 10 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1 株当たり当 期純利益
前回予想 (A)	28,000	1,200	1,000	500	34 円 46 銭
今回修正予想 (B)	25,269	1,007	627	23	1 円 60 銭
増減額 (B - A)	2,731	193	373	477	
増減率 (%)	9.8%	16.1%	37.3%	95.4%	
前期 (平成 19 年 10 月期) 実績	27,828	638	1,130	434	29 円 97 銭

( 2 ) 差異の理由

( 連結業績 )

当期においては、売上に関しては、 エステート事業に関して、当社子会社ゼネラル興産においてイタリア・ミラノの分譲マンション「ポーノ・カイロリプロジェクト」の完売を見込んでおりましたが、金融危機に端を発しますイタリア経済の景気後退により、完成

55戸のうち10戸が未販売となったことにより約8億円の予想比売上減少したこと、ならびに為替がユーロに対して期初にくらべ約40円の円高となったことにより売上が予想比6億円の減となったこと プリンティング・メディア事業に関して、価格競争激化の中で円高による影響や材料高騰による採算重視の運営を図ったことなどから、売上高15.7億円予想対比減少したこと OA サプライ事業においても価格競争の厳しさならびに材料の値上がり等による売上高予想比約6億円落ち込んだことから、全体の売上予想比9.8%減少となった。

営業利益に関しては、経費削減に取り組んだものの売上高の予想比の減少による影響で1.3億円減少したことや原価削減に注力したものの材料高の影響などにより粗利金額の減少したことから、予想比193百万円減となりました。また、経常利益に関しては、営業利益の減少ならびにエステート事業を営んでおります子会社ゼネラル興産のミラノプロジェクト等に対する貸付金に急激な円高により為替差損が1.5億円発生したことなどから営業外費用が嵩み、予想比373百万円減となりました。さらに純利益に関しては、平成20年10月期に成立いたしました公開買付等の事業再編に伴う費用や関係会社整理に伴う投資有価証券売却損、固定資産の減損損失等を計上したことなどから予想比95.4%の減少となったものであります。

## 2. 平成20年10月期通期個別業績(平成19年11月1日~平成20年10月31日)

### (1) 平成20年10月期個別業績の前期実績値との差異

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
今回確定数値	1,783	682	599	42
前期(平成19年10月期)実績	1,893	345	611	615
前期比増減率	5.8%	97.4%	2.0%	

### (2) 差異の理由

当社は、事業の選択と集中を積極的に推進しておりますが、今回、関係会社等整理により、特別損失が、投資有価証券売却損8億4百万円、投資有価証券評価損4億1千8百万円が発生し、貸付金回収にともなう貸倒引当金戻入益の計上にもかかわらず、特別損益で、4億7千7百万円の損失となったことにより、当期純損失42百万円を計上したものであります。

### 3. 特別損失の計上

当社は、上記のごとく、平成20年10月期連結業績において関係会社等整理により、投資有価証券売却損9億4千6百万円、固定資産減損損失5億4千2百万円を計上いたしました。

これは、事業の選択と集中を積極的に進めていることから、関係子会社の売却や不動産などの固定資産の評価洗替等によるものであります。

以上